

節電のご協力を得ながら 安定供給に万全を期す

電力需給の現状と 節電継続の経緯について

大飯原子力発電所が再稼動したが、西日本エリアの需給見通しが厳しい状況であることは変わらない。
中部電力はエリア内の電力安定供給を保つためにどのような対策を講じたのか、お客さま本部長である渡邊専務に聞く。



中部電力 取締役専務執行役員 お客さま本部長

渡邊 稜

(わたなべ・ゆたか)三重県出身、慶應義塾大学経済学部卒業後、1978年に中部電力入社。販売本部法人営業部長、販売本部営業部長などを歴任後、2011年6月に取締役専務執行役員 販売本部長に就任。(2012年7月1日よりお客さま本部に名称変更)

厳しい需給状況が予想された昨年の夏とこの冬を無事乗り切ることができましたのは、ご家庭から産業界、自治体など多くのお客さまや関係各位の節電へのご協力のおかげと、心より感謝申し上げます。

その一方で、昨年の夏に実施いただいた操業シフトや節電は、さまざまな方面に大きな社会的影響があり、お客さまに大変な痛みとご不便をおかけしました。あらためて、お詫び申し上げます。

そうしたことを踏まえ、この夏に向けては、火力発電所の定期点検の

繰り延べなど供給力の確保に努めるとともに、需要面でも計画調整契約の拡大などに努めた結果、過度の節電をお願いする事態は回避でき、期間を通じて安定供給の目安である8%の予備率を確保しています。

しかしながら、原子力発電所の停止で深刻な電力不足が懸念される地域もあり、応援融通電力確保のため国から中部エリアの皆さまにも節電要請がなされました。大飯原子力発電所の再稼動により数値目標は解除されましたが、依然西日本エリアの需給状況は厳しく、中部エリアの安定供給を大前提に、応援融通を継続する必要があります。このため、お客さまには、平日の午後1時から午後4時の時間帯を中心に、生活や健康、あるいは生産や営業活動に大きな影響を及ぼさない範囲で、引き続き節電をお願いしております。

需給状況を「見える化」 安価、安定供給を維持

昨年来、積極的に節電を考えてくださるお客さまから「投資を伴わない節電対策を提案してほしい」といったご要望をはじめとして多数のご意見をいただきました。

当社としても、お客さまの節電の

取り組みにお役立ていただけるよう、個別訪問やダイレクトメール、ホームページ、検針時にお配りするチラシなどに加え、テレビ、ラジオ、新聞広告など、さまざまな機会をとらえ、お客さまのご事情に合った節電方法を提案させていただいております。また、電力の需給状況や見通しを「見える化」することが効果的と考え、6月29日から9月28日まで、ホームページに「電力需給状況のお知らせ」を掲載しております。

無理のない節電や省エネの定着は、資源の乏しい我が国にとって重要なテーマであり、今後も「賢く上手な電気の使い方」などの情報提供・ご提案に努めていきます。

浜岡原子力発電所の停止による化石燃料費増加は弊社の収支に大きな影響を及ぼし、大変厳しい状況が続いております。しかし、私ども電気事業者の使命は「安価なエネルギーを安全に安定的に供給して、お客さまに安心をお届けすること」だと考えております。当社としましては、現行の料金水準を一日でも長く維持するために、最大限の経営効率化と浜岡原子力発電所の安全性をより一層高める取り組みに全力を注いでまいります。